

三度の花見

たなか踏基

昨年は、家内と東京千鳥ヶ淵の夜桜見物をした。北関東の近場にも、幸手の権現堂堤、熊谷の荒川土手、上尾の十連寺等、桜の名所は方々にある。千鳥ヶ淵は勤めていた会社の近くにあったこともあり、東京の桜の名所では好きな場所だったからである。今年近場では、上尾の十連寺に家内と行ったが、四月七日では枝垂れ桜はや遅かった。

これが今年の一度目の花見であった。

今年の桜は、例年になく桜が日持ちした。例年北関東では、順番に梅の後に桜が咲くのだが、今年は信州同様に各所で梅と桜が一緒に咲いた話を聞く。雨に打たれたらパット散るのが桜の有様で、咲くを愛で散るを愛でるのが何時もの習慣だった気がするのだが、今年は何故か四月上旬の桜が、中旬も散らないで木に残っていた。桜前線に異常気象の冷気が重なったからである。

一度目の花見は、四月十一日の事であった。私が、近所の公園で毎朝ラジオ体操をするようになったのは、何時頃からだったろうか。そう、それは始めラジオ体操ではなかったのである。ジョギング趣味の私は、在職中から公園の外周を数キロ走る習慣があった。休日、早起きして朝食前の冷気を切り裂くようにして、走って一汗掻くのは実に気分爽快だったからである。公園でシニアの二団が、朝の運動兼ねて歩いているのも知っていたし、引続き彼等がラジオ体操をする光景に出会い、傍らを軽快に抜き去る時、自分の若さ誇示の軽い優越感を覚えることもしばしばだった。

観ると人により外周を歩く回数が異なるようだが、毎朝談笑しながらウォーキング後、携帯ラジオを囲み、朝のNHK六時半放送の体操をしていた。

定年前から家内と二人、地域のスポーツ倶楽部に入会して水泳をしていた。その倶楽部の一員に、公園で体操をする元気の良いおばさん連もいた。定年後も、私は相変わらず公園を走った。自ずと倶楽部の熟女に誘われ顔馴染みになると、「おはようございます」と挨拶を交わし合った。

六十三歳頃から、私の朝の日課が何時の間にか変わっていった。ジョギング、速足ウォーキングの後、共にラジオ体操をする間柄になったからだ。

ある日、初めて公園での花見の誘いを受けた。ジョギングで私の公園デビュウから十数年後、どうやら地域シニアの仲間入りができたのである。千円会費の花見の予定日を聞いた時は、花は散ってしまつのではと危惧した。その日は、地域の満開時期から一週間経過後の四月十一日だった。

公園所定の場所に、同日十時に行ってみた。既に二十数名の老々男女が青いビニールシートに座って集まっていた。簡単な仕出弁当が並べられて席が設営されていた。私以外にも初参加の御仁が居た様だが、最初は皆神妙な顔だった。簡単な自己紹介の後、酒が回って余興になった。流石に芸達者が多く、ギターを弾込んで伴奏を努める者、其れに合せて唄う者、更に日本舞踊を踊る者、伊達に齡を重ねて居ない人々との親交を深める事が出来た。幸い私の本の読者も居て、感想を聞く念ながら小雨模様の天候となりお開きとなった。

三度目の花見は、四月十七日のことである。信州旧更埴市(合併後の千曲市)で、通称日本一の杏の里である。始めの花見から遅れる事十日である。信州の友人の誘いにほいほいと乗り、しなの鉄道に上田で乗り換え、戸倉上山田温泉のある戸倉駅の次の屋代駅で下車。紹介を受けた男性の連れの一人は上田の人、一人は諏訪の人である。

バス乗車で十五分で目的地に着くと高校同窓の熟女二人が待っていた。一行は六人になった。

バスを降りて歩く観光客は、平日の月曜日にも拘らず同地杏の里、森、倉科地区は人々で盛況であった。十万本の杏は山の麓では未だ蕾なのに、里ではやっと咲き始めの状態なのである。友人談で、今年の杏の開花は少し遅れ気味であるとのこと、昨年は同じ場所ですら十四日に満開であった由。

沿道には杏の加工品、杏ジャム、杏ワイン、杏飴、杏乾燥品を売る店が並んでいた。中には杏と全く無関係の地域特産の豆類、ブルーベリー、球根類、山菜、長芋等を商う露大商が軒を連ねていた。東京や横浜から桃源郷ならぬ、杏源郷を尋ねて来る人々がそれ程多いという証拠であろうか。

信州では梅の次に杏が咲いて、その後に桜が咲くのが例年であるのだが、今年はいくつの花々が一緒に咲いた。紅梅と杏、更に咲き始めの桜、これには流石に驚いた。今年には異常気象の為か、三つの花々が信州では同時に咲いて居たのである。

今年のこの現象は、例外的と言つより地球温暖化が、窮まった状況なのではあるまいかと思つた。寒冷地の東北地方や信州では、例年梅と桜が同時に咲くと話は珍しくないが、梅・杏・桜、モット言つたら桃の花、連翹、水仙さえ同時に咲いていたのである。異常気象の冷気の咎めだと思つた。

私の住む北関東では、桜は長持ちしたと言えども、既に散り始めているのに、此処信州では未だ桜も咲き始めなのである。狭い日本列島の中、かくも桜開花の地域差がある事に吃驚させられた。

土産にシニアの体操仲間用に杏の飴を買い求め、家内には杏ジャム、杏甘納豆、ブルーガン豆を購入し(試飲用のおまけのワイン付き)、コンビニの店先で二次会の軽い酒宴の後、一行六人と別れて気持ち豊に帰途に着いた。

了